

マイハザードマップ づくり

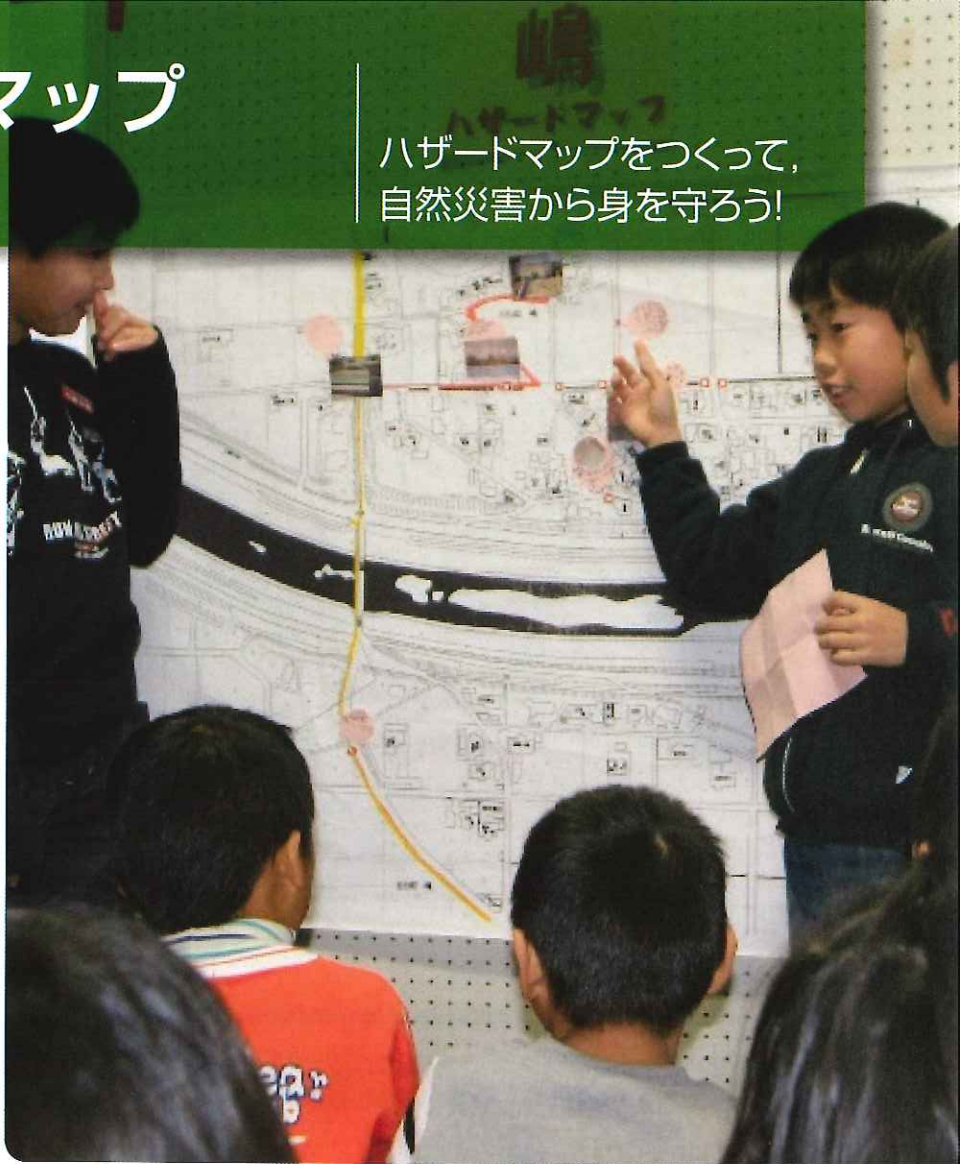
ハザードマップをつかって、
自然災害から身を守ろう!

活動 概要

本活動は、平成16年に起こった水害の状況を調べ、自分たちの町にも起こり得る災害と、その対処法を学ぶことなどを目的に、ハザードマップ作りを行ったものです。

実際に小坂校区の被災の様子を取材することで、児童は防災の意識が高まっただけでなく、地域とのつながりの大切さを学びました。

学校名	兵庫県豊岡市立小坂小学校
活動場所	小坂小学校校区内
対象学年	4年生
科目	総合的な学習の時間「ハザードマップを作ろう～防災探検隊～」の活動で実施
所要時間	活動30時間



学習のねらい

本学習は「総合的な学習の時間」の活動として実施しています。

小坂小学校の子どもたちは、この活動を始める3年前に台風での水害を体験していますが（平成16年10月、台風23号）、当時小学1年生であった子どもたちは、この記憶が少しずつ風化している部分もあります。

そのため、本学習では、防災学習を取り入れ、自ら考え、

自ら判断し、問題を解決することにより、高い防災意識を身につけ、災害から身を守る力を学ぶことをねらいに、ハザードマップづくりを行いました。

また、地域社会とのつながりも育みたいという目的で、小坂校区の被災の様子を取材したり、地域へ発信したりするという、ゴールを目指した活動としました。

実践例

活動を行うにあたって



P プログラム内容

活動1 6時間	水害や自然災害の情報を得る
活動2 6時間	ハザードマップのめあてと計画を立てる
活動3 10時間	ハザードマップをつくる
活動4 6時間	ハザードマップを発表する

活動5
2時間

災害が起きたときの行動を考える



活動時期

・10月～3月に実施



参加した児童数

・4年生 28名



活動場所

・小坂小学校 校区内



使用した道具

マップづくりの道具（白地図や模造紙、マジック、シールなど）

前年度の子どもたちが作成したハザードマップ

STAFF

スタッフの手配

活動を行うにあたって国土交通省の方々に協力していただきました。

国土交通省の方には、子どもたちと一緒に校区を調査したり、地域の人への聞き取りをしたりする際に、協力いただきました。

活動内容



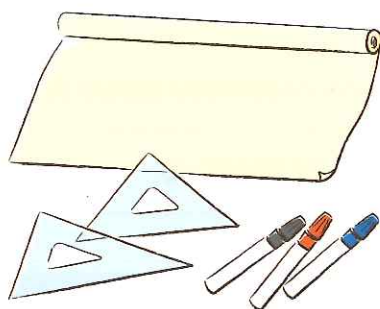
活動1 ～水害や自然災害の情報を得る～



- 最初に、平成16年に発生した台風による水害をはじめとする、様々な自然災害に関する情報を調べました。
- 自然災害を調べる過程で、砂防えん堤の働きについても考え、土砂災害を防ぐために「ひょうご元気松」の植栽活動に参加しました。
- また、前年度の4年生が作ったハザードマップを見て、現在の校区の危険箇所や防災設備の様子などを考えました。



活動2 ～ハザードマップのめあてと計画を立てる～



- みんなでどのようなハザードマップにするのか話し合い、めあてと計画を立てました。
- ハザードマップづくりのめあてを決めたら、それぞれの役割分担を決めました。
- また、わかりやすいハザードマップを作るための工夫についてみんなで考えました。



活動3 ～ハザードマップをつくる～



校区の調査



聞き取り調査の様子



マップづくり

① 避難所の決定と、安全な避難道路の条件について考える

- まず、活動2の復習として、何のためにハザードマップをつくるのかを確認しました。
- 水害時にはどこに避難するかを、事前に家族等に聞き取りをし、提出しました。
- 次に、教師が市役所に確認した避難所について、説明をしました。
- その上で、どこに避難するのがよいか、地区ごとに話し合って決定しました。
- 各自、白地図に自分の家から避難所までの避難経路を考え、地図に色づけをしました。
- 各自、自分の地図を見せ、なぜその経路にしたのかを発表しました（土砂崩れがなさそう、マンホールがないなどの意見がありました）。

② 危険場所を調べる

- まず教室で、避難道路や危険な場所を調べるにあたっての確認をしました。また、地域の人にインタビューをする際に何を聞くのかを考えさせ、隣の席同士でインタビューの練習をしました。
- 次に、野外での活動を行いました。地区は全12地区なので、3班に分けて活動を行いました。
- 教師や国土交通省豊岡河川国道事務所の方の引率で校区内を歩き、校区内の危険な場所や避難経路になりそうな場所の確認を行いました。移動に時間がかからないように自転車も使用しました。
- 現地調査と併せて地域の人を訪ね、平成16年の台風23号発生時の水害の様子について、聞き取りを行いました。
- 聞き取り調査や現地調査による情報と昨年度のマップをもとに、安全な避難経路を考えました。最後に情報を整理して、地区別にマップに書き込みました。

実践例





活動4 ～ハザードマップを発表する～



作成したハザードマップ

- 作成したハザードマップを校区住民に配布し、活用を促しました。
- また、配布の際、校区住民の思いを聞き、ハザードマップの見直し作業を行いました。



活動5 ～災害が起きたときの行動を考える～



国土交通省の方による講演

- マップを見て、小坂校区内で危険な場所がどこかを考えました。
- 災害が起きた際に、どのような行動をとればよいのかをみんなで話し合いました。
- 最後に国土交通省の方より、地域の防災の取り組みなどについてお話を聞きました。

まとめ



活動による効果

校区の災害に関心をもち、地域の危険な場所を学ぶことで、地域とのかかわりを深めることができました。また、マップをみんなに伝えることで、災害の心構えを培いました。



関連する単元

- ・3・4年生－社会「災害及び事故の防止」
- ・共通－総合的な学習の時間



地域の人の声

先日ハザードマップをお送り下さりありがとうございました。鳥居区の危険なところや避難するための道筋がはっきりわかり、その上説明まで書いてあるのでとても参考になります。さっそく家族の目の留まる所にはりました。

これからも校区住民の安全や安心のために、小坂小学校の皆様の知恵を貸してください。



先生の声

情報量や正確さはあまりよくないかもしれませんが、共に助け合う心を高めることができたのではないかと思います。災害が起きたら自分の命とともに、近所に住む人たちの命や、安全についても考えられるような子どもたちに、育てたいと思っています。